


新型コロナウイルス感染症対策下における子ども虐待防止に資する
助成事業報告書(HP掲載用)

| | |
|------|--------------------------------|
| 団体名 | NPO 法人ふるすあるは |
| 事業名 | メンタルヘルスの課題のある家庭への啓発コンテンツを介した支援 |
| 活動期間 | 2020年6月1日～2020年12月31日 |

| | |
|------|--|
| 実施内容 | <p>親子の支援にかかわる10の団体*(もしくは個人)と連携し、メンタルヘルスの課題のある家庭の親、子を支援するための本『ゆるっとこそだて応援ブック』『生きる冒険地図』を合計400冊配布した。また、各団体へ、コロナ禍での支援状況などについてヒアリングを行い、運営するウェブサイト「子ども情報ステーション」で取材記として公開した。</p> <p>*精神科訪問看護ステーション、多機能精神科クリニック、うつをかかえた母親の自助グループ、精神に障がいのある親を持つ成人した子どもの集い、ヤングケアラー支援団体、児童相談所、民間の虐待防止センター、DV支援団体、小中学校養護教諭、子ども食堂・子どもの居場所</p> |
| 成果 | <p>精神障がいなどのメンタルヘルスの課題を抱えた家庭で育つ子どもの安全、安心、育ちの支援と、親のメンタルヘルス向上につながることを目的に啓発コンテンツの配布を行ったが、子ども食堂への配布例では、「このような支援を必要としている子どもの存在を知ることができた」「こういうヘルプの仕方や相談できる場があると知っていると、大人も安心して子どもたちを見守れる」など、地域の大人の意識改革につながったとの声があった。その後、子どもたちや学校、児童館等にも配布し、特に学校で養護教諭が意識的に活用することで子どもたちとの共通言語になっているとのこと。親子の支援の補助的なツールになっている。</p> <p>取材記事は、2021年1月末までに合計3,936閲覧があり(今後も公開を継続)、記事を見た親から電話相談が入った例もあった。取材では、もともと困難を抱えていた家庭がコロナ禍でさらに厳しい状況に置かれていること、トラウマなどの傷つきを抱えている人に影響が重なりやすいことなどが具体的に語られた。そのような中で、電話相談の増設、セミナーのオンライン化、家庭訪問の実施など、思考錯誤しながら支援の提供を続けている様子もうかがえた。取材でみえた課題から、ヤングケアラーの子どもに向けたページを新たに作成公開するなど、情報発信の拡充につながっている。</p> |
| 写真 |  <p>(精神科クリニックの待合の絵本コーナーに本が設置されるようになった。だれでも手にとることができる。)</p> |
| リンク | <p>「コロナ禍と病気と…『子どものそだちとくらし』」取材記10」 https://kidsinfost.net/2020/08/29/interview-2/ 「ヤングケアラーのみなさんへ」 https://kidsinfost.net/2020/09/19/carer-2/</p> |